

第 85 回総合科学技術会議議事録（案）

1. 日時 平成 21 年 10 月 8 日（金） 15 : 02 ~ 15 : 31
2. 場所 総理官邸 4 階大会議室
3. 出席者

議長	鳩山由紀夫	内閣総理大臣
議員	平野 博文	内閣官房長官
同	菅 直人	科学技術政策担当大臣
同	原口 一博	総務大臣
同	藤井 裕久	財務大臣
同	川端 達夫	文部科学大臣
同	直嶋 正行	経済産業大臣
同	相澤 益男	元東京工業大学学長
同	本庶 佑	京都大学客員教授
同	奥村 直樹	元新日本製鐵（株）代表取締役 副社長、技術開発本部長
同	白石 隆	元政策研究大学院大学教授・副学長
同	榊原 定征	東レ株式会社 代表取締役社長
同	青木 玲子	一橋大学経済研究所教授
同	金澤 一郎	日本学術会議会長
臨時議員	郡司 彰	農林水産副大臣
4. 議題
 - (1) 平成 22 年度の科学技術に関する予算等の資源配分の方針について
 - (2) 平成 22 年度科学技術振興調整費概算要求方針について
5. 配布資料
 - 資料 1 - 1 平成 22 年度の科学技術に関する予算等の資源配分の方針（案）の概要
 - 資料 1 - 2 平成 22 年度の科学技術に関する予算等の資源配分の方針（案）

- 資料 1－3 グリーンイノベーションについて（考え方整理のたたき台）（案）
- 資料 2－1 平成 22 年度科学技術振興調整費概算要求方針（案）の概要
- 資料 2－2 平成 22 年度科学技術振興調整費概算要求方針（案）
- 資料 3 第 84 回総合科学技術会議議事録（案）

6. 議事

【菅議員】

それでは、時間となりましたので、第 85 回総合科学技術会議を開催いたします。

私は科学技術担当ということで今日の進行役を務めさせていただきます、菅直人です。

本日は、臨時議員として農林水産副大臣が出席をされております。

(1) 平成 22 年度の科学技術に関する予算等の資源配分の方針について

(2) 平成 22 年度科学技術振興調整費概算要求方針について

【菅議員】

議事に入りますが、平成 22 年度の科学技術に関する予算等の資源配分の方針について、及び平成 22 年度科学技術振興調整費概算要求方針についてということでございます。2 件とも来年度予算要求に関連するものですので、一括して相澤議員よりご説明をいただき、その後意見交換を行い、決定についてお諮りをいたします。

よろしく申し上げます。

【相澤議員】

相澤でございます。それでは、資料 1－1 と資料 2－1 のパワーポイントのフォームになっております資料を使いまして説明させていただきます。

総合科学技術会議では、次年度に重点的に取り組むべき事項等をまとめた「科学技術に関する予算等の資源配分の方針」を決定し、各府省の科学技術関係施策がこの方針に沿ったものになるよう、総合科学技術会議の有識者議員が各府省から施策内容をヒアリングし、施策に係る優先度判定等を実施するとともに、その結果が予算編成において活用され、科学技術関係予算の充実が図られるよう意見具申をしてまいったところでございます。

次のページをお願いいたします。平成 22 年度の科学技術に関する予算等の資源配分の方針は、既に本年 6 月 19 日に決定されております。鳩山内閣の発足とともにこれを廃止し、

新たな資源配分方針を策定いたしましたので、本日もご審議いただければというふうに思います。

鳩山内閣の基本方針あるいは平成22年度の予算編成の方針、国連気候変動サミットにおける鳩山総理の演説、これらに基づきまして、既に決定いたしました資源配分方針等の見直しを行いました。そこで、最も重要な政策課題として、グリーンイノベーションを位置づけたところでございます。

新たな資源配分方針案の骨子でございますけれども、まず、最重要政策課題として、経済と環境が両立する社会を目指すグリーンイノベーションの推進でございます。総理が国連ですべての主要国による意欲的な削減目標の合意を前提として、温室効果ガスを2020年までに1990年比で25%削減するという大きな目標を打ち出されたところでございます。我が国はこの壮大な目標達成を目指し、革新的な環境エネルギー技術で世界をリードし、あわせて研究開発成果の実利用、それから普及を強力に推進するために社会システムの転換を図ることが極めて重要になってまいります。

さらに、これらを基に新産業の創造、あるいは国民生活の向上に資する新しい表現でありますグリーンイノベーションを目指して、我が国のみならず、世界規模での経済と環境を両立させることが必要であります。

具体の革新技術の推進でございますが、3つ代表例を挙げております。既にありますエネルギー効率の高い技術の世界的普及の促進。2つ目が、現在開発中の太陽電池、燃料電池、バイオマス、グリーンケミストリ、CO₂の回収貯蔵、これらの革新的技術のさらなる加速でございます。3番目に、新たな科学的・技術的な知見の発掘と統合によるブレークスルー技術の研究開発、こういうことを重点に進めることになります。

2番目の柱としては、重点的に推進すべき課題として、内閣の基本方針の中に述べられております「人の命を大切に」、「活力ある農山漁村の再生」、「医療・介護・環境など新たな分野における産業と雇用の創出による内需主導型の経済成長の実現」、「世界の平和と繁栄を実現」、これらの課題解決に向けて、科学技術施策としては次の5つの項目を推進することになります。

第1は、健康長寿社会の実現。第2は、地域科学技術施策の推進、第3に、社会還元加速プロジェクトの推進。第4、革新的技術の推進。第5が、科学技術外交の推進でございます。

以上の最重要政策課題及び重点に推進すべき課題に最も重要なことは、これらを支える基盤的な課題であります。基礎研究の強化、人材育成の強化、知的財産あるいは国際標準化等

の対応を強化することにあります。

これらを基に資源配分方針に基づくメリハリのある優先度判定等の実施を行い、意見具申をしてまいりたいというところでございます。

こういうことを推進することによって、我が国経済の中長期的な発展と国民生活の向上、国民の期待に応える科学技術予算の実現ということに真っ向から取り組んでいきたいというふうに考えているところでございます。

それから、資料2-1をご覧くださいと思います。平成22年度科学技術振興調整費概算要求方針でございます。科学技術振興調整費とは、総合科学技術会議の方針に基づきまして、府省横断的に政策誘導型で競争的な資金として適用するものでございます。この科学技術振興調整費の要求方針につきましても既に決定していたところでございますが、これも改めまして新しい要求方針としての案でございます。

基本的な考え方は、先ほどの科学技術関係予算の資源配分方針の基本的な考え方と同一でございますが、鳩山内閣で提示されました基本方針、新たな資源配分方針、これらに沿って低炭素社会の構築に向けたグリーンイノベーションの推進に重点を置いて、新規のプログラムあるいは継続プログラムを推進するということでございます。

今回の概算要求方針の最も重要な点は、今までは研究開発に重点を置いて推進されてまいりましたが、これを社会システムの転換と一体的に進めるということでございます。研究開発の研究成果が出てまいりましても、それを実利用に向けさらに普及させるためには、どうしても障害となっている社会システムを変革していかなければなりません。それを一体的に進めるというための新しいプログラムをスタートさせるという趣旨でございます。特に、来年度においては、グリーンイノベーション創出の推進の大きな支えになるという新しいプロジェクトを推進するところでございます。

それから、第3番目には、世界をリードする科学技術、それを支える人材の育成等の着実な推進でございまして、これは我が国の国力の源泉である科学技術の将来にわたって展開していくためには絶え間ないシーズが発掘されるようなシーズが必要でございます。これらを踏まえて、革新的技術推進費については、低炭素社会の構築に向けた、さらに革新的技術を加速させることに重点を置いて推進してまいります。

以上でございます。

【菅議員】

ただいま、相澤議員よりご説明をいただきました。その中で、グリーンイノベーションと
いうことを軸にご説明いただきました。この表現は、鳩山総理が国連などで話をされたこと
を私なりに理解をして、先だって京都のSTSの会議でもあいさつの中で申し上げたことで
ありますが、ごく簡単に私なりの説明をして補足させていただきたいと思っております。

この1990年比で25%削減するということにおいては、従来の技術の組合せだけでは
とても不可能だと、新しい技術開発が必要だと思っております。中でも、従来から日本が比
較的得意とされている省エネ、あるいは太陽光発電といったもの、さらに私は植物というも
のが1つの同時にキーになるのではないかと。そういう意味でグリーンイノベーションのグリー
ンという意味は、そういうクリーンなエネルギーといったことに加えて、植物のグリーン
というものもあわせて盛り込んだつもりであります。

やや固い話になりますが、私、学生さんなどによく言っているのは、地球のそばにある火
星と金星の大気がどういう成分かと聞くんですが、大体95%はCO₂で、45億年前の地
球も95%はCO₂であったと。それが今0.035%までCO₂が減ったのもすべては植
物の力によるものだと、光合成によってCO₂をCとO₂に分けて。O₂がふえた結果、地球
上に動物が発生し、最後に発生した動物が逆にCとO₂をくっつけているというのが、端的
に言うと45億年の地球の歴史ではないかと。そう考えますと、この植物の持っている本質
的な力というのは極めて大きいのではないかと、このように思っております。

そんなことも含めて、今、相澤議員から問題提起いただきました、環境と経済が両立する、
そういう意味を含めたグリーンイノベーションの推進ということを重要政策課題に取り上げ
ていただいたのは、大変、総理の趣旨とも一致をしているのではないかと、このように思っ
ているところであります。

そういったことで、きょうはもう少し時間がありますので、本題の議題に関連して意見交
換をお願いいたしたいと思えます。どなたからでもどうぞ。

どうぞ。

【本庶議員】

1点ちょっと強調させていただきたいことがございます。それは、この資料1-2の本文
のところでございますが、そこで基本的な考え方というところの2つ目のパラグラフのとこ
ろに書いてあることでございます。当然のことながら、科学技術というのは非常に長期的な
展望でやっていくということが根幹であり、そのための基礎研究というのは非常に重要であ

ります。現在、科学技術関係予算、大体3.5兆円でございますが、その約3分の1が大学及び基礎研究でありまして、3分の2は独法を含めたどちらかというところ、課題解決型のプロジェクト研究ということになっております。私はもう少し基礎研究を増やした方がいいのではないかと考えております。

ここで書いてありますことは、今回のグリーンイノベーション、それから鳩山総理の考えというのを推進するに当たって、やるべきことはこの課題解決型のさまざまなプロジェクトを精査し、その中できちっと内閣の方針に沿ったものを重点化するという趣旨であります。したがって、基礎研究、例えば科学研究費補助金などはたかだか今2,000億しかないんですが、私は倍にしてもいいと考えております。そういうところをカットしてここに持ってくるというのではないということだけはぜひ、財務大臣も文科大臣もおられますので、お願いしたいと思って、その点は強調させていただきたいということでございます。

【菅議員】

他に。どうぞ。

【榊原議員】

先日、総理が国連で25%、90年対比と、もちろん前提つきで、演説されたわけですが、我々産業界といたしましては厳粛に受け止めています。非常に高いターゲットだという認識は持っておりますけれども、何としてもこれに近づけるように努力しなきゃいかんというふうに思っております。

今度のCOP15で最終的にどういう数字になるにせよ、日本としては25%を想定して、すべての手段を導入して温暖化ガス削減に向けての体制整備をしなきゃいけないと。その中核となるのが先ほど説明のあったグリーンイノベーションであろうかと思えます。

このグリーンイノベーションの中核課題として、ぜひ革新的な技術開発、これを最優先で、しかも産官学のオールジャパンの体制で、しかも相当な資金投入、1,000億円単位の大規模な研究開発資金を投入して、しかも大至急、2020年に間に合うようにやらなきゃいけないというふうに考えております。

その中で、ちょっと話がそれますが、これはたまたま昨日の毎日新聞のホームページを見ておりましたら、前の政権時代に決めた2,700億円の最先端研究開発支援プログラムについて、これを2,000億円に減額すると。しかも、その2,000億円を1,000億

円と1,000億円に分割をして、1,000億円はももとの30人に配るが、あと残りの1,000億円は若手ないしは女性研究者の支援に振り向けるといったような記事。この記事の真偽は別としまして、私は女性研究者、若手研究者の支援というのは、これは非常に大事であることは全く同意しているわけでございますけれども、今現在の危急存亡のときに、なぜ決められた予算を削って若手研究者なのか女性研究者なのかということについて、これは国民的合意が得られないのではないかと。むしろ、どうしても2,700億円減らさないといけないのであれば、鳩山イニシアティブを実現するために環境技術に思い切った資金を投入すると、そういったことで総理の目標と掲げた数字を達成できるように、すべての資金をそこに最優先で投入するということが必要ではないかと思うわけです。

補正予算の最終的な見直しもこの一両日中と伺っておりますけれども、ぜひこの点をご配慮いただきたいというふうに思います。

【菅議員】

それについては、後で私のほうからご説明します。

ほかの方がおりましたら。どうぞ。

【白石議員】

少し違うテーマですが、この資料1-1に重点的に推進すべき課題の1つとして、科学技術外交というのがございます。総理が国連で提唱されましたCO₂削減、これは科学技術外交からしても非常に重要なイニシアティブだと私は考えておりますけれども。今度、ASEANプラス3、東アジアサミットがございます。総理は既に東アジア共同体構築ということを非常に重視しておられますけれども、ぜひその場においても、特にこのグリーンイノベーション等に関連して、例えば東アジア共同体構築の一環としての東アジアリサーチコミュニティみたいなものをぜひ考えていただければと思います。

もうかつてと違って、日本だけがアジアでお金を出せる国ではありません。中国だって韓国だってシンガポールだってお金出せますので、一緒になってグローバルなあるいは地域的な課題に取り組むということをぜひやはり提唱していただきたい。

それで、そのときに、実は私たまたま、アジア経済研究所の所長もしております、日本のイニシアティブで、今ジャカルタにはASEAN事務局に併設の形で、ERIAというものがございます。これはエコノミック・リサーチ・インスティテュート・フォア・アセア

ン・アンド・イーストアジアですけれども、ここは本来の任務はアジア版のOECDのようなものになるということが期待されておまして、今のところまだ経済政策だけに限られておりますけれども、科学技術についても研究を行っていく上ではこういうものがポリシーメイキングのベースになり得ると思います。ぜひその辺も考えて、科学技術ということで、今度のASEANプラス3やなんかのときにも、ぜひ何かお願いできればと思います。

【菅議員】

かなり時間の制約があるんですが。

では、奥村先生。

【奥村議員】

グリーンイノベーション関係で一言申し上げたいと思いますけれども、先ほど菅大臣からございましたように、25%削減はこの10年間で既存の技術だけでは難しいというのはおっしゃるとおりだと思いますが、同時に、2020年という10年先のことを考えますと、現在アベイラブルな、いわゆるBAT、ベスト・アベイラブル・テクノロジーですね、これはIEAが出しているものでございますが、これを使って、技術移転することによって、例えば火力発電所等が日本並みの効率であれば年間17億トン、これ日本全体の年間発生量より多い分の削減可能とされています。したがって、鳩山イニシアティブで途上国への技術移転の仕組みというのをうたわれておりますけれども、これをぜひ中身の濃い、実現しやすく効果の出るような仕組みに作り上げていただきたいということが重要ではないかと考えております。

【菅議員】

予定の時間になっていますが、どうしてもの方だけ。一言ずつにしてください。

【直嶋議員】

一言だけ。

【菅議員】

一言だけにしてください。

【直嶋議員】

グリーンイノベーションを最重点に推進するということは結構だというふうに思っております。経済産業大臣の立場から二、三点コメント的にお願い申し上げたいと思います。

やはりこのグリーンイノベーションを推進するということでいいますと、やはり研究開発が新しい産業の創出につながる、それが原動力だというふうに思っております、国の研究においても研究成果の実用化までを視野に入れて進めることが重要であるというふうに思っております。

2点目でございます。その実用化を視野に入れて研究を効果的に進めるためには、先ほどもありましたが、産学官の多様な人材を1カ所に結集することが重要だと思っております。現在我が国の研究者は約71万人いらっしゃいますが、そのうち企業等に所属されている方が約48万人強でございます、こうした産学官の人材の結集は、大変大きな効果を出すというふうに思っております。現在既にATUとかアメリカでも同様な傾向が見られるというふうに聞いております。

それから、3点目でございますが、今の途上国への技術支援も含めて考えますと、やはり国際標準化と連携した研究開発の推進というのが非常に重要なポイントだというふうに思っております。特に我が国の企業は太陽電池等の新しい産業分野において、今、海外の企業とのぎを削っているところがございます、こういう分野においては迅速にその技術を国際標準化していくことが大変大きな要素になってきているということでございます、この点の重要性をご指摘をさせていただきたいというふうに思います。

以上でございます。

【菅議員】

それでは、時間がありませんので、ちょっと私から、先ほど榊原議員が言われたこと。この場にふさわしいかどうかわかりませんが、ほとんどオーバラップされていますので申し上げます。

先だってこの科学技術会議の有識者の皆さんにもお集まりいただきまして、あるいはそれ以外の場でもいろいろと2,700億円についてご意見を伺わせていただきました。最終的には補正予算の見直しという中で、まだ最終の最終まではいっておりませんが、私の責任の下で一定の方向性を示させていただきました。まだ最後の最後はまだ今見直しが進んでおり

ますので、どの機会にご報告しようかと思っておりましたが、若干報道には出ております。

簡単に言えば、2,700億円の中で、これはもう科学技術の立場からいけば私もフルでそれを使わせていただきたいと思いましたが、いろいろな事情からいって、全体として700億円だけ圧縮をさせていただきました。

そして、2,000億円の中の1,000億は皆さん方が決められた30人の中心研究者を中心に、総額は減りますけれども、それでも相当の額でありますので、それを適切な規模で配分いただくのが適当ではないか、そして、あとの1,000億については、若手を含む、この基準は皆さん方をお願いをしたい。若手に限るだけではなくて、あるいは女性に限るわけではなくて、場合によったら若手で女性で、あるいはテーマというものを含めて、改めて基準や考え方をまとめていただきまして、そのことについて配分していただいたらどうだろうか。これが私の下で原案として見直しのほうに出させていただいたところであります。

榊原議員からも、その会議にはおられませんでしたが、その後お手紙をいただきまして、趣旨は十分に理解しているつもりであります。私は皆さん方のこれまでの議論の経緯、いろいろな皆さんの経緯を含めて、それなりに皆さん方のご意見も参酌した中でこういうことが適当ではないかということで一応方針を出させていただきました。

今日はちょっとこの場でこれ以上ご議論する時間がないので、もしまた何かありましたら別の機会に議論させていただこうと思っております。

ということで、よろしいでしょうか。最後、総理からお話をいただかなければいけないんですが。

【原口議員】

後で、ペーパーで出させていただきます。

【川端議員】

趣旨は全く異議ございませんが、政府関係の研究開発投資の基準、目安というものを欧米の対GDP比というものを視野に入れてしっかり確保するという過去の経緯も十分踏まえて、総枠の議論をまた新たにさせていただきたいのと、今お触れになった補正予算の最先端の開発プログラムと科学技術振興調整費の革新的技術推進費というのが機能的に、テーマ的に重なる可能性が若干ありますので、これは慎重にその重複を避けるという作業を私たちとしては検討したいと思っております。

以上です。

【菅議員】

それぞれ本席議員、あるいは白石議員、奥村議員からもお話をいただきましたので、今の川端文科大臣がおっしゃったことも含めて、これ切れ目があるようでないということは皆さんご承知だと思いますので、十分に、2,700あるいは来年度予算含めて、皆さんのご意見を十分参考にさせていただきたいと思っております。

そこで、こうした議論をいろいろいただきましたが、本件議案の資源配分の方針及び科学技術振興調整概算要求方針を決定することとしてよろしいでしょうか。いかがでしょうか。

【原口議員】

だから、ペーパーを出させてくださいと言ってるんです。時間がないから。

【菅議員】

一応この場で決めた中で対応してください。

【原口議員】

わかりました。

【菅議員】

それでは、そういったペーパーはまた参考にさせていただくことを前提として、本案を決定することとし、総理及び関係大臣に意見具申することとさせていただきます。

それでは、プレスの皆さんに入っていた後、鳩山総理からご発言をいただきたいと思えます。

(報道関係者入室)

【菅議員】

それでは、鳩山総理からご発言をいただきます。

【鳩山議長（内閣総理大臣）】

総合科学技術会議にお運びを下さいまして、ありがとうございます。皆様方のおかげで我が国の科学技術の方向性を常に位置づけていただきますこと、心から感謝を申し上げます。

先ほどから大変有益なさまざまなお話をいただきましたことに、改めて感謝を申し上げます。

ご案内かもしれませんが、私も副総理も官房長官も工学系の人間でございます。こういう内閣は大変珍しいと思います。それだけに、私どもも科学技術というものには並々ならぬ関心を持ってこれからも臨んでまいりたい、そのことはまずお約束をいたします。

先ほど相澤議員先生からお話ございましたけれども、先生がちょうど助手をなさったころに私も東工大で助手をやっておりまして、同じ東工大の助手同士の時期がございました。そのころに私も研究をしておりましてから、自分の身をもってお話をするのは必ずしも適当ではないかもしれませんが、ややもすると研究者、学者というものは自分の研究に酔ってしまって、その自分の理論を正当化するために、理論のための理論というものをつくって、はてそれが社会にどれだけ役に立ってるんだろうと、必ずしも社会での有用性とは別に、理論の正当性ばかり強調する方向に、ひょっとすると先生方研究者というものは、いってしまう可能性があるのではないかと。そうでなくて、やはりこれからの国のあり方、社会を変えるんだとすれば、この新たな社会のシステムに合うような形で研究を、発展を遂げていくことが我が国にとってふさわしいのではないかと。そんな思いでございます。その意味では、ぜひこれからも、そのために応用研究ばかりしろということではありません。むしろそのために必要な基礎研究は大いに必要ではないかと。例えば今回グリーンイノベーションということでいろいろとご提言もいただいたわけでございます。私は国連などでのある意味での産業界の皆さん方にはご面倒をおかけいたしますけれども、大胆な発言をいたしましたのは、これは地球に生きとし生けるものにとって必要な方向ではないか、そのために我が国の科学技術力、これからも大いに推進させるためのチャンスとするべきときではないか、そのための大胆な提言だにご理解をいただきたい。

とすれば、そのグリーンイノベーションをどのようにして作り上げていくかということが、大変大きな、この国にとっての発展の道だと、世界に貢献する道だと、そのようにご理解をいただいて、その方針で今日もおまとめをいただいたことは大変ありがたいことだと思っております。

先ほど補正予算に関しては若干の減額ということに対してもお気持ちが述べられたわけで

ございますが、私どもが決してそのことは科学技術を粗末にするということではありません。本当に重要なところにもっともっと予算をつけていきたいと願っているのも事実であることはご理解いただきながら、今後とも総合科学技術会議の皆様方の方針をしっかりとお作りをいただく中で、我が国の未来を定めていただければと思っております。

改めて、ご多忙の中お運びを下さいました皆様方に心から感謝を申し上げて、お礼のあいさつ、議長というのは本当は、最初の仕切り役かと思っておりましたが、議長が最後のあいさつ要員だとは思っておりませんでした、私からのお礼を込めたあいさつといたします。どうぞよろしくお願いいたします。

今日はありがとうございました。

(報道関係者退室)

【菅議員】

それでは、総理のご発言があったところで、以上で本日の会議を終了いたします。

なお、前回会議の議事録と本日の資料は公表をさせていただきます。

どうもありがとうございました。